

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の中に「地域との交流を持ちながら」と事業所独自の理念を作り町内の行事に参加し地域との交流を大切にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、談話室、各ユニット内に理念を掲示し週1回の朝礼時や全体会議で復唱しスタッフ全員で共有し理念の実現に心がけている。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	施設見学に来られた際利用案内に書面で理念を提示し説明している。又入居契約時理念の説明を行っている。	○	ホームで開催する夏祭りに家族、地域の方を招待し理念を説明し触れて頂くよう取り組んでいく。
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	苑外散歩の際近所の方から声を掛けてもらったりホームの畑で収穫した野菜をおすそ分けしたり、近所の方からみかんや筍等季節の野菜を頂き交流できている。又近所の小学生が遊びに来ることがある。	○	近所の方と顔なじみになり日常的な付き合いが持てるよう努めて行きたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の老人会に2名加入している。地域文化祭には作品を毎年出品したり、近所の厳島神社の夏祭りに参加している。	○	地域の敬老会に参加するようにしたい。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実習生の受け入れをしたり、運営推進会議の中で認知症サポーター養成講座を行い19名の地域、家族の方に参加してもらい勉強会を行いました。	○	学生の研修や職場体験の受け入れを行っていく。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価を実施し全体会議で改善点をあげ検討できていない部分を改善している。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しサービス内容を報告し毎回テーマを決めて会議を行い市職員、家族、地域、利用者の意見を聞いている。改善点があれば全体会議で話し合い改善しサービスの向上に努めている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の行政集団指導に出席している。又グループホーム連絡会ではそれぞれの事業所より検討課題を持ち寄り意見交換を行っている。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度については家族会で説明を行い現在1名制度を活用されている。		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	9/24全体会議で勉強会を行う。研修会があれば参加するようにしている。又日常でも言葉使いや声掛けの仕方などで気が付いた時など全体会議で話し合い注意をするよう防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学に来られた際に利用案内のパンフレットを渡し入居を決める前から十分な情報を提供している。契約書の各項目について説明し理解、納得が得られるように努めている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市より介護相談員の訪問を受け入れ利用者の 意見、要望、苦情、不満を探るよう努めている 。運営推進会議のメンバーとして利用者 に参加してもらい意見や要望苦情、不満を聞き 運営に反映させている。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	面会時に個人記録を開示し生活状況や健康状 態を説明している。毎月発行しているスマイ ル便りに個々の生活や健康状態を記載し報告 している。金銭管理は金銭出納帳をコピーし 領収書と一緒に家族に渡し確認のサインをも らっている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会で意見の収集に努めている。又玄関内 に意見箱設置し随時苦情の受付をしている。 運営推進会議には家族に参加してもらい外部 者へ意見を表せる機会を設け、その結果を全 体会議で話し合い改善に努めている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	全体会議やユニット会議で意見を聴衆し改善 すべき問題があれば全体会議で話し合い運営 に反映している。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	利用者の病院受診等に合わせ人員配置を行っ ている。食事作りのパートの方をお願いした りA・B各ユニットスタッフでお互い勤務調整 を行い協力体制を整えている。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームの行事をA・B合同で行い全てのスタッ フが入居者と馴染みの関係になるよう努めて いる。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用は性別、年齢に関係なく雇用している。各自得意な事に役割を持ちそれぞれの能力をを活かしている。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	1/24地域の人権問題研修会に参加し、全体会議において伝達学習を行っている。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの経験、力量に応じ研修会への参加を促し、介護福祉士、介護支援専門員の資格取得を勧めている。	○	H21年度認知症介護実践リーダー研修1名受講している。
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	9/17市内のグループホームで集まり、介護従事者が参加し意見交換会を行っている。他市のグループホームとの交流の機会を持ちサービスの向上に努めている。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩室でくつろげるようテレビや寝具を用意している。定期的な懇親会を開催し意見を聞く機会を持っている。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課制度を取り入れスタッフの努力実績を把握し給与・賞与に反映させるなどしている。産休、育児休暇実施し労働条件向上に向け努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族、病院からの情報提供を参考に本人のニーズの把握や、不安の解消に努める。入居当初は、帰宅願望や異常行動が出現することがあるが、話を傾聴し、異常行動と受け止めずにフォローしていく体制をとり、自分を受け入れてくれるところなんだと思える関係を作っていく。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者の家庭訪問や数回の面会を重ね、また施設の見学などしてもらおう。またご家族や本人の要望、困っている事を聞き、それを受け止めて日々の業務に生かしていく。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に来られた時に十分な時間を設け、話を聞き、利用者のレベルにあった生活の場を説明、紹介などしている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者、家族へ事前に見学して頂くようお願いしている。担当職員は、何度か入居前に訪問し、顔なじみの関係を作りご本人が納得してから利用してもらうように努めている。		入居当初、本人、家族の不安があれば家族も一緒に泊まって頂くことができる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個々の得意な事を職員全員が把握しており、食事作りや洗濯物たたみ、掃除等は積極的に参加して頂くようにしている。感謝の言葉を必ず伝え、入居者の方からも気遣いの言葉を受けたりしている。また帰りの挨拶など声掛けをすると、暖かい言葉を返され癒されながら帰るなどよい関係を築けている。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	墓参りや受診時の付き添い等協力していただいている。野菜の差し入れを頂いたり、誕生会、夏祭りなど行事がある際には入居者の方と一緒に参加して頂くようにしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	毎月ユニット便りを発行し、入居者の近況を家族に報告している。誕生会や夏祭りなどのイベントは、早めに連絡し、多くの方に参加して頂いている。普段も家族の面会の他に、家族との外出、外泊されている方もおられる。		認知症サポート養成講座などを開催し、認知症の理解、進行や変化について家族と共に対応できるようにしている。
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前入居されていた家族や入居以前からの友人の面会など、顔馴染みの方々の面会も多い。外出の際には、入居者の希望によって自宅やお宮など馴染みの場所に行く事もある。		一部の入居者に限られている。希望、要望の訴えない入居者も行動観察し、家族に協力して頂くようにしていきたい。
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	職員が入居者の状況を把握する事で入居者同士の話をすきっかけを作ったり、一緒に食事作りや散歩などを楽しんでいただいている。入居者が入院された場合等お見舞いに行き、励ましあわれたりしている。認知症の進行により、他入居者との意思疎通が難しく、トラブルがあった場合は職員が間に入り対応している。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期入院などで、一度退居された方の再入居や再入居申し込みも多いため、入院中もソーシャルワーカーとの連絡を取り、状況を把握するように努めている。以前入居されていた家族が来訪される事もあり、イベントにも招待している。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者や家族の希望を聴き、介護計画を作成しています。自己表現の困難な方場合は、行動観察をしてアセスメントを行っている。一場面の前後の行動をカンファレンスで話し個人の背景を把握、ニーズに添えるように努めている。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前より本人様、家族、施設や病院から情報を得ている。入居後も本人様との話や家族との連絡により、以前の情報を得るように努めている。センター方式の一部を活用している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護記録に1日の過ごし方や心身状態、食事、排泄状況などを記入し、朝夕の申し送りでは大切な所見は口頭でも申し送り、把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のケアカンファレンスで、入居者のその時期に合った計画を作成できるように心がけている。朝夕の申し送り時に気づき、又必要であれば主治医、看護師、家族に相談して介護計画に反映している。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日の介護記録や申し送りで入居前の状態の変化によっては、介護記録の期間内であっても見直ししている。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別の介護記録や全体の申し送り簿に目を通し、個別の状況を把握するようにしています。休み明けの職員でも状況把握ができるように、わかりやすい記録の記入を心がけている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体が病院であり、医療機関との連携を取りながら、必要に応じて受診や訪問看護の利用を行っている。入居者の外出、外泊や家族の宿泊にもその都度対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域行事に参加したり、ホーム行事に招待したりして地域との交流をしている。消防署には非難訓練を通して協力頂いている。地域交番や近所の方には徘徊時の協力依頼をしている。ボランティアの慰問交流もある。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	該当者は現在いないが、事業所のみでは困難な状況になった場合等、地域の他の居宅介護支援事業所や介護保険施設に相談し連携をとりながら支援をしていく。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	該当者は現在いないが、事業所のみでは困難な状況になった場合等、GH意見交換会や市の地域包括支援係に相談し、連携を取りながら相談していく予定である。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全入居者が母体の病院にかかっている。必要に応じて皮膚科・眼科・歯科等かかりつけのある方は継続して受診されている。受診はスタッフ又は家族が付き添い受診時の報告は随時行っている。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医へ相談ができ必要時は受診し、じっくり話を聞いていただいたり内服の変更をしてもらっている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護師であり入居者の健康管理を行っている。看護師不在時は電話連絡し必要時は施設に来てもらったり母体の病院に連絡し助言をもらっている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際は家族と共に医師から診断結果・治療計画を聞き、入院中は看護師・ソーシャルワーカーと連絡を密にし退院の調整、今後の対応を話し合っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重度化した場合、終末期の指針を説明し同意をえている。その都度家族・本人の意向を確認しながら対応し方針を共有していく。急変時対応マニュアルを作成しスタッフ間で共有し介護にあたっている。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	まだ該当者はいないが安心・安全を確保しよりよく暮らして頂くために予測される事柄や状態変化に対応できるよう話し合い医療関係、訪問看護の導入など家族・スタッフで協力し日々検討していくようにする。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居の際には以前に利用されていたサービス機関から本人の状況、習慣等情報をもらい今までの生活が継続できるよう支援している。ホームから移られる場合は本人、家族の了解をもらい情報を提供しケアの継続やダメージが最小になるよう努めている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に入居者の方を人生の先輩として尊敬する事を忘れないようにしている。人前での排泄の声掛けは気配りしサインやメモで確認している。個人情報については守秘義務についてスタッフ全員周知徹底している。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	体操やレクリエーション参加は利用者の意思を尊重している。又毎月1日に懇談会を開き行きたい所や食べたいもの等を聞きそれぞれ希望に添うようにしている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間は個人のペースに合わせて見守っている。入浴時間等入居者の希望に合わせて午前・午後とも行っている。その人の前日から夜間の様子を把握し、その日の体調等を考慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	2ヶ月に1度の訪問理容を利用されたり、行きつけの理容・美容室へ行かれカットやカラーをされている。外出や行事のときなどは本人の好きな服を着られ整容の支援をしている。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使い、好みに応じた献立を考え季節感が味わえるように工夫している。個人の能力に応じ、職員と食事作りや食器の片付けなどの手伝いをしていただいている。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	主治医の許可を得、晩酌や特定の場所での喫煙の支援をしている。個人の希望により、果物や御菓子等の購入をしたり、可能な限り手作りの御菓子を提供している。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人の排泄パターンを把握し、声掛けをしてトイレ誘導をしている。排泄チェックを記録し、個人の排泄の把握をしている。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯の制限なく、個人の体調や気分を考慮し、強制することなく本人の希望に添って1人ずつ入浴できるよう支援している。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は1人1人の状況に応じ、居室やホールで制限することなく過ごして頂いている。夜間は希望に応じ、主治医から処方された薬剤で調整を図っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、料理、洗濯物たたみなど個人の能力に応じた役割分担をし、必要とされる喜びが持てる支援を心がけている。ビデオなど借りて他入居者と昔の映画を見たり、趣味や経験に応じた楽しみが持てるように工夫している。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の能力に応じお金を管理、使用されている方もおられる。職員が付き添い、買い物に出かけられたり、希望の品を代購したり1人1人の能力に応じ使用できるよう支援している。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天候や体調を考慮し散歩の声掛けをしたり、季節のお花見学や買い物などできる限り希望に添って外出ができるよう支援している。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族と一緒に自宅への外出、外泊、外出などをされたり、外出可能なところへは本人の希望に応じて職員が同行し外出している。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ、電話されたり、取次いだりしている。個人で携帯電話使用されている方もおられる。手紙は直接本人へ手渡し、希望により代読、代筆している。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	家族や知人、友人、馴染みの方などが気軽に訪問して頂き、ホールや居室での談話が楽しめる様(時には話しに参加して)お茶やお菓子を提供している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒の危険がある方には、センサーマット設置し、夜間のトイレは付き添い介助している。身体拘束しないケアを実施している。また、身体拘束のマニュアルを準備したり、全体会議などで研修会を開いたりしている。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員が、鍵を掛ける事の弊害を理解しているが、帰宅、外出願望の強い入居者の安全の為、やむなく施錠行っている。帰宅願望強く、ホームより出て行く危険が大きい人は家族の了解のもとに探知器携帯していただいている。		探知器の携帯していただいている。
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ホールが無にならない様、職員間で声掛けをし、入居者の行動把握や所在確認に努めている。夜間は定時に巡回し、センサーマットを利用して安全に配慮してる。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物品などは、入居者に目につかない所や鍵のかかる場所に保管している。裁縫をされる方には針を落とすという危険があるので使用後の針数の確認、針箱は本人の許可を得こちらで保管するようにしている。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリ、ハットを記入し、全体会議や申し送りノートを活用し、カンファレンスをして再発防止に努めている。帰宅願望強い人には探知器携帯してもらったり、一人一人に応じた事故防止に取り組んでいる。定期的に火災訓練や初期消火訓練を年2回実施している。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応時マニュアルがあり、定期的に勉強会を行なっている。消防署員からの救急救命(BLS)の指導を受けている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防災訓練を実施している。近隣の方にも訓練に参加頂き災害時に協力が得られるように働きかけている。又非常用備品を準備している。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクについては、その都度連絡し個別に説明し理解頂いている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタル測定、食事・水分摂取量チェック、排泄の回数・量・状態のチェックを行い、表情・行動の変化に気をつけている。また、訴えをよく聞き、異変時には速やかにかかりつけ医へ連絡・受診し、申し送りノートに記入している。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の処方薬説明書をファイルに綴じ、いつでも確認できるようにしている。飲み忘れや誤薬防止の為、毎食時に仕切りのある薬剤箱に入れ、配布時には声に出し本人確認後、飲み込まれるまで見届けている。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	散歩や体操に誘い、体を動かしていただくよう工夫している。また、食物繊維を多く含む食事・おやつを取り入れ、水分補給にも努めている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケアは個人の状態に合わせ声掛けや付き添い、仕上げ介助している。歯科往診も定期的に来て頂き、年1回検診も行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食一人一人の食事・水分摂取量チェックを行い、毎月体重測定をし、状態変化チェックしている。また、入居者の疾患や嗜好を把握し、全体または個別に食事・おやつメニューに取り入れながら、定期的に栄養士によるチェックを受けている。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居時、感染症の確認をし、感染症対策のマニュアルを共有している。毎年インフルエンザの流行時期前に入居者とスタッフは予防接種を実施。スタッフは毎月検便し、感染予防に役立っている。年1回の水質検査も実施。速乾性手指消毒剤、使い捨て手袋を使用し、また、手洗い励行に努めている。本年度は5/28に感染症対策の勉強会実施。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日買い物に行き、新鮮な食材を確保し、中国産は購入していない。消費期限のチェックを行い、また、衛生チェック表を使用し、毎日の除菌を徹底している。更に毎週、各項目ごとに衛生管理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は緩やかなスロープと手すりを使用し、安全に行き来出来る造りになっている。門や駐車場にはつげやつつじを、玄関前には季節に応じた花を植え育てている。入居者が花を見ながらゆっくり外気浴が出来るようチェアセットを設置し、くつろげる空間作りをしている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物や季節の花を飾ったり、入居者と一緒に作った工作・写真を飾り殺風景にならないようにしている。浴室からは庭園が眺められる。また、窓にはロールカーテンや板を使用して眩しくないよう調節している。テレビの音量にも気を配るようにしている。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂席の配置の工夫やホールにソファを置き、自由に座れるようにしている。中庭のウッドデッキや玄関横にテーブルチェアセットを置き、外気浴やおやつをしたり、タバコを吸いに行かれたり、思い思いに過ごせる空間作りに工夫している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた馴染みの家具や小物を自らの希望に合わせて設置されている。家族との写真や、好きな花、観葉植物を置かれ1人1人が個性のある、くつろぐ事のできる空間作りに努めている。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、掃除の際には窓を開け換気に気を配っている。ホールでは乾湿計にて適切な温度、湿度管理をしている。又、ホールで過ごされている時間などに声掛けをし、入居者の了解を得て居室の空気の入れ替えをしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には利用者の希望に添って使いやすいように家具や小物が設置してある。廊下、トイレ、浴室には手すりが設置してあり、躓きや転倒防止の為、足元に小物やマットを置かないようにしている。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	係りを決め、環境整備を行っている。居室入り口には飾りつけをした表札を設置し、日付やその日の献立を大きなボードに書き出している。毎日、勤務スタッフの顔写真をボードに表示し、入居者に分かりやすいようにしている。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地が広く、田んぼや神社が近くにあり、季節の花も楽しめる為、天候のよい日は散歩に出かけている。ホーム内の畑では野菜を作り、入居者と一緒に収穫や水撒き等している。ウッドデッキや玄関は日当たりが良いのでお茶会や日光浴に利用している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

それぞれの残存能力に合った家事や園芸、学習（脳トレーニング問題、ハンドベル練習）に参加して頂き、家庭的な生活環境を保ちながら「その人らしさ」を大切に、認知症の進行防止に努めています。母体が病院である為、急病でもすぐに受診対応ができ健康保持の為の連携が取れている。午前、午後毎日入浴でき個別入浴介助を行いプライバシーの確保など入居者本意に立った支援を行っています。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着を目指した独自の理念で「地域との交流を持ちながら…」と掲げ、町内の夏祭りや文化祭、運動会など参加し、交流を大切にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎週月曜日の合同朝礼と月1回の全体会議で理念を復唱し、談話室、各ユニットの入口、各カウンターに掲示して共有と実現に心がけている。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	年2回の家族会や地域の方々も参加される夏祭りやクリスマス会の際、理念を交えて挨拶したり、契約時に理念の説明を行っている。また、病院と合同の季刊誌での案内においても理念や方針について案内している。	○	運営推進会議でも理念を共有できるように記載していきたい。
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	歩いていけるような近所の床屋や商店に行く際、声をかけてもらったり、季節の作物を近所の方からもったり、園内で出来た作物を配ったりしている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会への入会者2名。町内の文化祭や夏祭りなどに参加し、地元の人々と交流する事に努めている。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	年2回の家族会の中で、1回は勉強会を実施し、本年度は市の方から地域サポーター養成講座を実施してもい、地域の人々にも参加してもらいました。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	指摘されて点を全体会議で報告、話し合いし、改善に努め、運営推進会議や家族会でも報告し、具体的な改善に取り組んでいる。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの内容の報告のほかテーマを決めて話しをし、家族代表、市職員、地域の方の意見、提案をして頂き、議事録に残し、その後スタッフで話し合い、サービス向上に努めている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	昨年は9月26日、本年は9月17日に市内GH事業所が集まって意見交換会を実施。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居時についての情報提供をおこない、スタッフはH20年1月25日、H21年10月29日全体会議で勉強会を実施。啓発の研修にスタッフが参加し、報告会をしている。		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	9月24日全体会議で勉強会を実施し、研修会があれば参加するようにしている。また、日頃も言葉遣いや声掛けの仕方などで気づいた時など全体会議やユニット会議で話し合い、2ヶ月に1度、虐待シートを用いてチェックしている。		
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の各項目に対し説明し、家に帰ってもう一度書類に目を通してもらい、不明な点があったらいつでも聞いてくださいと伝え、理解を得られるように努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の訪問を随時受けている。運営推 進会議にも利用者に参加してもらい意見や要 望を聞いている。意見や苦情が出た場合、会 議で話し、速やかに対応し、運営推進会議や 家族会で経過や結果の報告をしている。月1 回、入居者全員の懇談会でも意見を聞いている。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	月1回、写真付きのスマイル便りを送付し、 暮らしぶり、受診状況など伝えている。面会 時に利用者の生活状況や健康状態の説明を 行っている。預かり金は、金銭出納表をコ ピーし、領収書と一緒に家族に渡し、確認印 を貰っている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	通常年2回の家族会を設けているが今年の夏 は中止になった。普段より意見の収集に努 め、玄関先にも意見箱を設置している。苦情 や意見があったときには速やかに対応し、全 体会議でカンファレンスし、改善の経過や結 果を報告している。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	月1回の全体会議とユニット会議のほか必要 時全体会議を行って、行事・業務・環境整 備・サービス内容・システム変更運営も含 め、利用者の受け入れやスタッフの対応など あらゆる面でスタッフで話し合い、反映。年 2回、自己評価してもらい、意見を記入して もらっている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	早出・日勤・遅出・夜勤によって利用者主体 に人員配置を行っている。8人常勤で確保し ており、食事作りのみのパート有。各ユニ ットのスタッフが勤務調整を行い、協力体制 を整えている。職員が換わる際には1~2ヶ月 とり、スムーズに移行できるようにしている。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	以前、転属などで家族からもスタッフの顔が 覚えられないという意見があったことによ り、認知症の入居者に良くないことを上層部 に伝え、理解を得て、異動は最小限にして もらっている。行事は合同で行い全スタッフが 顔なじみの関係になるように努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用は、性別・年齢に関係なく雇用しており、病院退職後も採用し、差別なく安心して働ける環境を目指している。職員の持つ特技や個性が生かせるよう役割を持ってもらい、各自主導権を持ってもらっている。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	地域の人権教育の研修に11月23日に参加し、11月28日全体会議において伝達・学習している。1月24日同和問題の地域研修に参加し報告会を実施。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	パート・正職員に限らず、研修や勉強会の知らせが来たら掲示し、参加を促し、参加者は会議にて報告会を実施。研修費用も各自、年1万円支給される。育成については年2回自己評価をしてもらい、経験に応じて資格取得を働きかけている。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市が仲介となって同業者のネットワークを作り、本年度は9月17日に実施。意見交換などを行い、サービス向上に努めている。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩室でくつろげるようTVや飲食の出来る備品や流し台、コンロも設置。その他テラスを利用し、休憩したり、病院主催の親睦会が定期的に関催。旅行積み立てをし、病院と合同で年1回旅行に行くようにし、ストレス解消に努めている。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年2回行う自己評価により振り返ってもらい、研修参加や資格取得してもらおう。資格手当でもあり、主任制度もあり、各自が向上心を持って働けるように努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人、家族、担当のSWから詳しく話を伺い、本人希望を重点に考案を始める。病院に入院されている場合、病室にて面談し、いろいろな情報を参考に本人のニーズの把握に努める。可能な限り、自宅・病室に出向くようにしている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前の数回の面接を本人のみ、家族のみ、一緒になどパターンを変え、言動・行動などから困っている事、富んな事、望まれている事などを掴み取るように心がけている。また、SWからの情報も参考にしている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に来られた際、十分な時間をとり、本人と家族の要望について伺う。その際、本人のレベルに合った生活の場等、他機関と連絡を取りながら対応するようにしている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人と家族に見学して頂くようお願いしている。入院されている場合は、本人の納得のうえで入居してもらえるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や掃除などの日常生活を声かけにて一緒にし、感謝の気持ちを伝えるようにしている。生活のなかで昔ながらの生活の習慣を教えてもらったりしている。生活の中で一緒に考え、動くを念頭に介助している。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族には、可能な限りの面会や外出を依頼し、気軽に立ち寄ってもらうようにしている。来所の際には、些細な事でも家族に報告・相談し、入居者のことを考えていただけるようにしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の面会時は、居室・ホールで一緒に過ごしていただいている。また、行事開催時、参加していただけるように連絡をしている。毎月の支払いも振込みではなく持参していただき、親睦を深めるように努めている。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域密着である為か、入居者や家族が親戚や友人、知人である事もあり、昔馴染みの話をする場をもおける場合もある。家族以外の方でも気軽に面会いただくように声かけしている。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	入居者同士で話されたり、レクレーションに参加されることも多い。全体でレクレーションをする時には、2～3人のスタッフが参加し、声かけするように心がけている。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された方の家族がなじみの入居者やスタッフに会いに来られたり、行事へ参加いただいている。長期入院で退居された方でも再度申し込まれる方も多く、SWや本人、家族と連絡取り合い、より良い関係が続くようにしている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月1回、全入居者で懇談会を行い、要望や意見を伺っている。また日常生活中での表情や態度で、入居者のニーズとつかみ取れるように考察している。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前は本人・家族・病院・施設などから情報を得る。入居後は、本人・家族の協力を得て、センター方式で情報を収集し、全スタッフで情報を共有している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護記録にその日のバイタル・食事表・内服・排泄・水分摂取量の記入欄とその他の事柄の申し送り欄がある。生活日誌には、全入居者の1日の日課を記入し、検温表には、1ヶ月の状態を記入し、いつでも状態把握できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のユニット会議にてケアカンファレンスを行い、入居者に見合った介護計画をするようにしている。問題が生じた場合には、主治医、看護師、家族へ相談した上で介護計画を作成している。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日の申し送りや毎月のカンファレンスでの意見を反映し、3ヶ月に1度見直しを行っているが、入居者の状態や状況に変化があり、見直しが必要であれば、その都度プランの変更をしている。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全入居者の個別記録を全職員が把握・確認しやすいようにファイルしている。また、申し送りノートを作成し、業務前に目を通し、全体的な業務の流れ、状態把握に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体が病院であり、医療連携体制を結び、24時間体制に努めている。母体病院以外にも眼科や皮膚科への通院付き添いも行っている。本人・家族の要望で外出や外泊される場合もその都度、対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年2回の避難訓練で消防署との連携の確認を行っている。また定期的に民生委員の方も来所され、入居者と一緒に過ごしていただいている。地域の夏祭りや運動会への参加もしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	要望に応じて、訪問内容や訪問パン屋、歯科往診を行っている。	○	音楽療法やケアビクス等の慰問を定期的にしてもらえるようにしていきたい。
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在まで、該当者おらず。事業者のみでは困難になった場合など、GH意見交換会や市の地域包括支援係に相談し、連携をとりながら支援して行く予定である。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の病院がかかりつけ医である入居者がほとんどであり、受診時はスタッフが付き添いをしている。歯科往診があり、必要に応じて往診して頂く関係を築いている。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	受診の際、話を聞いてもらったり、状態状況を報告する事によって指導や助言、内服の変更をしてもらえる医師との関係が築けている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護師であり、入居者の健康管理を行っている。夜間や休日にも助言や受診の指示をもらい対応している。また、母体の病院看護師から助言してもらう事もある。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、家族とともに主治医からの治療計画を聞いている。また、介護サマリーとして本人の情報を提供している。入院中は担当看護師、SWと連絡を取り、退院後の対応について話し合っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重度化した場合、終末期の指針を説明し、同意を得ている。その時々本人や家族の意向を確認しながら対応方針の共有をしていく。急変時の対応などもスタッフ間で共有し介護にあたる。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	予測される事柄やホームの機能状態や他入居者への影響なども踏まえホームで出来る事、できない事を把握し、スタッフと家族が協力し、日々検討して行くようにする。また、GHの意見交換会などで情報を得て、検討や準備を行う。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用されていたサービス機関や家族から本人の状況・習慣・趣味・好みなどで、情報をもらい、本人・家族の要望を聞いて、今までの生活が継続できるように支援している。ホームから転居される場合は、GHでの情報を提供している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報については、入居時に守秘義務について重要事項説明書に記入し、スタッフ全員徹底している。カンファレンスでも誇りや尊厳など、呼び方、話し方、接し方など対応について話をしている。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	食事や行きたい所など希望を伺っている。体操やレクリエーションの参加、入浴は本人の意志を尊重している。1行動を元にしてニーズや精神状態についてスタッフでも話し合い意向を把握するようにしている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	脳トレや塗り絵などをされる方、テレビを見られる方と歌を聞かれる方など時間をずらしたりして楽しみを持って過ごして頂いている。状態・ニーズにより食事時間をずらしたり、入浴は日勤帯でいつでも入れるようにしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	外出やイベント時は身だしなみにアクセサリをつけたり、化粧のアドバイスをやっている。希望により、訪問美容の利用や行きつけの床屋に行かれる方もある。定期的にスタッフにより希望者のヘアカラーも行っている。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事作りをしたり、GHで採れた野菜を料理に取り入れたりして一緒にテーブルで同じものを食べて笑いのある食事をしている。配膳や下膳などその人にあった望む事をしていただいている。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在、喫煙・飲酒を希望される入居者はおられず。家族が持参されたお菓子は、事故防止に預かり、少しずつ提供している。おやつは希望を聞き、人気のあるぜんざいや旬の食材を使った物を手作りで提供するようになっている。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	行動観察や記録により、時間をみて誘導したり、手を挙げてサインされたり、耳元で聞いて誘導している。安易にオムツを使用しないためカンファレンスを行い出来る限り、トイレに誘導している。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日、日勤帯でいつでもはいれるようにしている。目が届くように1人ずつ入ってもらっている。拒否がある場合は無理強いせず、時間をずらしたり、タイミングを見計らい自然に入れるようにスタッフで連携を取っている。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間帯であまり良眠出来ていない場合や体調不良・傾眠が多く見られる場合は、居室にて静養頂いている。個別記録により、睡眠パターンを把握し、場合により家族・医師と相談し薬剤で調整を図ることもある。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの特技・趣味・嗜好により、料理・塗り絵・計算問題、パズル・ビデオ鑑賞・ドライブ・ボール遊びなど状況に応じて楽しんでいただいている。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お賽銭や買い物ではお金を渡し、本人に払ってもらえる機会を作っているが、「払って」といわれる事が多い。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気がいい日車椅子でもなるべく散歩するようにしている。イベントや行事でも外出している。本人の希望があれば、随時対応し、車椅子を持参してドライブに出かけている。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族との外出は、その都度対応している。季節の花の見学や足湯へのドライブは、入居者も楽しみにされており、スタッフで対応している。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの電話希望の際は、取次ぎを行っている。コードレス電話を用意しているが、使われていない。手紙のやり取りは、現在希望者もなく、行っていない。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	家族だけでなく、全ての訪問者に対し、気軽に来ていただけるよう面会時には、居室へ誘導し、お茶やお菓子を準備するように配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待防止法の勉強会において拘束についても話し、拘束しないよう取り組んで、実例はゼロ。転倒やベット柵を外される方には、センサーマットで予防をしている。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	見守り担当者を決め、自由を奪わないようにしている。玄関口にセンサーマットを活用し、扉の施錠はしないように努めている。入居者が外へ出ようとされた場合は、付き添うようにしている。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	1名以上のスタッフがホールや台所におり、入居者の行動把握に努めている。席を外す時などスタッフ間の声掛けを密にして注意を払っている。夜間帯で行動に危険がある時には、センサーマットで対応している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な薬品などは、入居者の目の届かない鍵のできる場所に保管している。収集癖のある入居者については、入浴時などに居室のチェックをしている。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットや転倒報告を活用し、申し送りや全体会議でカンファレンスし、事故の再発防止に努めている。また、定期的に避難訓練を実施し、事故防止に努めている。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルがあり、事故発生時に方法の共有をし、定期的に勉強会をしている。消防職員からの救急救命方法などの指導も定期的にして頂いている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、昼夜設定の避難訓練を消防署の協力の下で行っている。消火器・火災報知器の点検も定期的に行っている。自然災害等の為の非常食や備品を用意している。夜勤帯では、毎日5項目の安全点検も行っている。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状態の変化があった場合はその都度、家族に報告し、起こりうるリスクについても伝えるようにしている。本人や家族の意思を確認しながら取り組んでいる。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル・排泄・水分摂取・食事量の状況をチェックし、変化ある場合は看護師に報告し、指示をもらう。変化事項は、介護記録や申し送りノートに記入し、情報の共有に努めている。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに各自の内服情報を保管し、変更があった場合は、マーキングして分かりやすくしている。また、大切な薬は、赤マジックでチェックして分かりやすくしている。食後の内服は、内服管理箱を準備している。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	おやつは乳製品を多く出すようにしている。献立にも野菜を多く取り入れるように心掛けている。水分摂取や健康状態を把握すると共に排泄状況を把握に努めている。また、毎日の日課として体操や散歩を行っている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアは、個人の状態に合わせて、声掛けや見守り、磨き介助を行っている。義歯の使用入居者については、毎晩、義歯洗浄剤による洗浄を行っている。年1回の歯科検診も行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回の懇談会をし、食べたい物を聞き、献立に反映している。献立作成時は旬の野菜、畑で収穫して農作物に考慮し、毎週スタッフが交代で行い、栄養士がチェックしている。水分や食事量は毎日確認している。必要に応じてとろみも利用している。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居時に感染症の有無を確認している。定期的に感染症についての勉強会を行っており、その際、独自のマニュアルを参考にしている。毎月1回の検便による細菌検査と毎年のインフルエンザ予防接種を実施している。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、買い物に行き、新鮮な食材を確保している。食材購入時には、出来る限り国内産を購入するように努めている。GH内では独自の衛生管理チェック表を作成して台所などの衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は緩やかなスロープで手すりもあり安全に歩行できるようになっている。GH敷地内に四季を感じる事の出来る花や木を植えている。玄関前やウッドデッキには外気浴できる椅子を置き、ゆっくりとくつろげる空間作りに努めている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には観葉植物を置いたり、季節の飾り付けをしている。廊下には行事ごとの写真を飾ったり、トイレにも殺風景にならないように花の写真を飾ったりの工夫をしている。ホールには、手作りした季節の飾りや花を生けている。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者がくつろげるように玄関前やウッドデッキに椅子やテーブルを置いている。外でおやつをしたり、散歩の途中に休憩したりするときにも利用している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅と環境のギャップを感じないように使い慣れた家具や小物を置いている。ADLの変化によりベッドの位置を変えたりしている。居室には、家族や思い出の写真を飾られている。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、窓を開け、居室やホールの換気をしている。居室には、換気扇が設置されており、常時作動している。冷暖房は入居者に合わせて随時、温度調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室・脱衣所には、手すりを設置している。居室の電気は2段階にでき、夜間のトイレ誘導時のための小ライトが居室・廊下に設置している。食卓の椅子やホールソファにも工夫している。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入口には、各入居者に合わせた表札を設置している。トイレやトイレには、張り紙をして場所を示している。ホールには、ホワイトボードを設置し、日付・献立を大きく表示している。当日出勤スタッフの顔写真も掲示している。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	園内の畑で農作物の収穫したり、ウッドデッキでお茶や外気浴をしたりして気分転換されている。寺社が近くにあるため、散歩に行かれる事もある。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

畑やガーデニングを行い、季節ごとにみんなで収穫して食べて、近所に配ったり、一緒に水やりや草取りをしています。
入浴は、午前・午後と毎日入れるように準備しており、1人ずつでの入浴でのプライバシーの確保など入居者本意に立った介護に取り組んでいます。
母体が病院で隣接している為に急病でもすぐに受診でき、健康保持のための連携が取れていると思います。